

より2～5時間おくれて最強雨が降りやすい。

⑩ 発達期の強い上昇気流中では雲水量は増大するが、落下速度の遅い雪片等は落下できず、雨滴の成長はそれほど大きくないから一般に強雨も降りにくい。空中の大雲水量の貯蔵庫の底を開いて強雨を降らせるのは下降気流の引金のある所であり、地上ではその強雨に伴う下降気流により発散域となる。

⑪ このため強雨域は海上から線状の強エコー域が伸び、その風下端の衰弱部に当る所であり、風上の暖水域上の取東域から可降水量の大きい雲やエコーが連続して補給されている所である。

⑫ なお、山岳部では地形上昇による霧雨が連続するから、その雨量強度は小さいが長時間継続するため見掛上の雨量はかなり多くなることもある。

なお、この調査には、福岡管区气象台と日本気象協会福岡本部の御支援を受けた。記して謝意を表する。

引用文献

1) 福岡管区气象台, 1964: 九州の気候, 福岡管区気

象台: 125-128.

- 2) 海上気象課, 1971: 昭和45年度南方定点観測報告, 船と海上気象, 15の2: 7.
- 3) 木の脇秀哉, 脇田哲雄, 1970: 宮崎県に発生したたつまきについて, 研究時報, 22: 299-304.
- 4) 気象庁, 1967: 全国降水量資料, 気象庁観測技術資料, 30.
- 5) 小元敬男, 1971: 熱帯性積乱雲の気象調節に関するセミナー報告, 天気, 18: 606.
- 6) 武田喬男, 1971: 降水セルの力学と数値実験, 天気, 18: 9-19.
- 7) 武田京一, 塩月善晴, 1970: レーダーで見た対流性降雨雲の垂直構造, 天気, 17: 491-498.
- 8) 山田三朗, 1969: 九州における強雨と大雨のメンスケールの降雨機構, 天気, 16: 379-384.
- 9) 山田三朗, 1962: らせんエコーの性質, 福岡管区気象研究会誌, 22: 165-170.
- 10) 山田三朗, 1965: 九州地方における豪雨の特質とその予報方法, 天気, 12: 312-318.
- 11) 安田清美, 1970: 日本における強雨の気候学的特性, 天気, 17: 541.

支部役員について

九州支部第17期新役員

支部長	多賀 将 (福岡管区气象台)	理事	堀内 剛二 (長崎海洋气象台)
常任理事	沢田 龍吉 (九州大学)	理事	鎌本 博夫 (鹿児島地方气象台)
常任理事	松本 誠一 (福岡管区气象台)	幹事	小島 隆義 (福岡管区气象台)
常任理事	長田 英二 (")	幹事	村田 芳幸 (")
理事	坂上 務 (九州大学)		

北海道支部第8期新役員

支部長	毛利圭太郎 (札幌管区气象台)	理事	大野 義輝 (函館海洋气象台)
常任理事	孫野 長治 (北大理学部)	幹事長	中岡 裕之 (札幌管区气象台)
常任理事	藤範 晃雄 (札幌管区气象台)	幹事	播磨屋敏生 (北大理学部)
常任理事	丸山 栄三 (札幌管区气象台)	幹事	遠藤 辰雄 (北大理学部)
理事	杉本 豊 (札幌管区气象台)	幹事	小島 修 (札幌管区气象台)
理事	井上 力太 (北大工学部)		